

1. 評価結果(概要表)

作成日 平成21年2月19日

【評価実施概要】

事業所番号	0475501136		
法人名	株式会社ウェルフェアフォレスト		
事業所名	グループホームいずみの里		
所在地 (電話番号)	仙台市泉区山の寺1丁目34-3 (電話) 022-772-7791		
評価機関名	社会福祉法人 仙台市社会福祉協議会		
所在地	仙台市青葉区五橋2丁目12番2号		
訪問調査日	平成21年1月26日	評価確定日	平成21年3月23日

【情報提供票より】(20年12月5日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成19年7月1日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18人
職員数	17 人	常勤11人, 非常勤6人, 常勤換算15.4人	

(2) 建物概要

建物形態	併設/ 単独	新築 /改築
建物構造	木造一部スーパーウォール工法 ツーバイフォー 1階建ての1階部分	

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	62,000 円	その他の経費(月額)	実費	
敷金	有(円)	(無)		
保証金の有無 (入居一時金含む)	(有(120,000円)) 無	有りの場合 償却の有無	(有) 無	
食材料費	朝食	200 円	昼食	250 円
	夕食	300 円	おやつ	50 円
	又は1日当たり		800 円	

(4) 利用者の概要(月 日現在)

利用者人数	15 人	男性	3 人	女性	12 人	
要介護1	1 人	要介護2	9 人			
要介護3	4 人	要介護4	人			
要介護5	1 人	要支援2	人			
年齢	平均	82.3 歳	最低	72 歳	最高	93 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関	杜のまちクリニック、伊達歯科医院
--------	------------------


【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

ホームは住宅街に立地し、向かいには地域の集会所がある。町内会主催の行事や地区社会福祉協議会主催の食事会に参加する他、中学校の職場体験を受け入れるなど地域との関係性強化に努めている。また、ホームには畳の共用スペースがあり、季節が感じられる中庭を眺められるよう工夫されている。家庭的な雰囲気の中で、職員と入居者が和やかに過ごせる居心地の良いホームとなっている。

【重点項目への取組状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取組、改善状況(関連項目:外部4)
	前回の外部評価で見出された課題のうち、6項目は改善されている。しかし4項目については継続課題となっている。
重点項目②	今回の自己評価に対する取組状況(関連項目:外部4)
	管理者、職員は評価の意義や目的を理解し、項目ごとに職員全員で話し合いながら取り組んでいる。
重点項目③	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取組(関連項目:外部4, 5, 6)
	運営推進会議は2ヶ月に1回開催され、会議では参加者からホームの安全管理のあり方や、災害対策について意見が出され運営に活かされている。外部評価の結果についても報告されている。
重点項目④	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)
	利用者の生活の様子や健康状態は、面会時や電話で報告されている。職員が家族の来訪時に声をかけ、話しやすい雰囲気づくりに努めている。出された意見については職員会議や運営推進会議で話し合い、対応策を講じている。
重点項目⑤	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	町内会に加入し、お茶会や映画会、新年会等の地域の行事に利用者が参加している。また、中学生の職場体験も受入れている。今年度から、ホーム行事の際に地域のボランティア団体から協力を得られる体制が作られており、地域との交流に努めている。

2. 評価結果(詳細)

( 部分は重点項目です)

取組を期待したい項目

外部	自己	項目	取組の事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取組を期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくり上げている	事業所独自の理念の中で地域とのかかわりについて謳っている。また、ユニットごとの理念も作成しており、1年に1回職員全員で見直しを行っている。		
2	2	○理念の共有と日々の取組 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	月に1回の職員会議において、理念に沿ったケアができていないかを職員全員で話し合い、日々のサービスに活かしている。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域との付き合い 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	町内会に加入し、お茶会や映画会、新年会等の地域の行事に利用者が参加している。また、中学生の職場体験の受入れも行っている。今年度から、ホーム行事の際に地域のボランティア団体に協力を得られる体制が作られており、地域との交流に努めている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	管理者、職員は評価の意義や目的を理解し、項目ごとに職員全員で話し合いながら取り組んでいる。前回評価で見いだされた課題について改善に向けて取り組んでいるが、改善計画書がなく計画的な改善には至っていない。	○	評価で見いだされた課題について改善計画書を作成し、改善に取り組むことが望まれる。
5	8	○運営推進会議を活かした取組 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取組状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は2ヶ月に1回開催され、町内会長、民生委員、地区社協会長、包括支援センター職員、家族などが参加している。会議では、参加者からホーム運営について意見やアドバイスをもらい、サービスの向上に活かしている。前回の外部評価結果についても報告されている。		

外部	自己	項目	取組の事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取組を期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	担当者にホームの取組を理解してもらうための具体的な取り組みは行われていない。	○	行事の案内や運営推進会議の報告を行う等、ホームを理解・支援してもらうよう働きかけることが求められる。
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている	家族の来訪時に声をかけ、状況を報告している。来訪の難しい家族には月に1度電話で状況を報告している。金銭管理については、「預り金規程」により出納帳で管理し、月に1度は家族に報告して確認印をもらっている。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員及び外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族の来訪時や介護計画を説明する際、要望を聞くようにしており、出された課題については、職員会議や運営推進会議で対応策を検討している。また、入所時に重要事項説明書でホーム以外の苦情窓口についても説明している。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者がなじみの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	入居者への影響を考慮し、できるだけ異動はしない方針をとっている。異動があった場合は引継ぎの時間を設け、入居者に説明し影響がないよう配慮されている。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取組 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画を立て、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	内部研修を実施するとともに、外部研修に参加している。参加した研修内容は書類の回覧だけでなく、報告の機会を設けている。また、職員同士でどのような研修会が必要かを話し合い、参加できるよう配慮している。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組をしている	宮城県認知症グループホーム連絡協議会等の同業者ネットワークには加入していない。地域の同業者と交流する機会が限られ、実践的な交流や連携を図るまでに至っていない。	○	他ホームとの情報交換や交換研修の機会を設け、日々のサービスや職員の育成に役立つ実践的な交流や連携を図り、サービスの向上に取り組んでいくことが求められる。

外部	自己	項目	取組の事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取組を期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○なじみながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐徐に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	入居者の状況に応じて体験入所を行い、徐々に馴染みながら入居できるよう支援している。家族と本人の両者が納得して入所してもらえるように、入居までに本人や家族を訪問して十分な話し合いを行い、個別の状況に合わせて利用開始まで支援している。		
13	27	○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支え合う関係を築いている	生活歴、日常の会話や様子などから入居者の得意な分野を把握し、生活の中で発揮してもらえるよう取り組んでいる。職員は調理、裁縫等の家事や戦時中の話、習慣について入居者から学び、互いに支えあう関係を築いている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の会話の中で入居者の思いを把握している。また、家族が来訪した際や介護計画を作成する際に本人の視点に立って話し合いを行い、意向を確認している。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアの在り方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	介護計画は職員全員で話し合い、家族や本人の意向、主治医の意見を組み入れて、個別具体的に作成している。介護計画作成後は必ず家族へ説明し同意を得て交付されている。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	介護計画は月に1回、入居者の様子や家族の意向を確認し、作成している。また、モニタリングのうえ3ヶ月ごとに見直している。状況に変化がある場合は家族の意向も確認し、随時見直している。見直した介護計画は同意を得て交付されている。		

外部	自己	項目	取組の事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取組を期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援(事業所及び法人関連事業の多機能性の活用)					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	入居者の希望に併せて外食や買い物に出掛けるなど、入居者本人や家族の希望に合わせて柔軟に対応している。また、ホームの行事として季節に応じて外出の機会を設け、本人の希望に添って個々の満足を高めるよう努力している。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域支援との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人、家族の希望する医療機関を受診できるよう支援している。受診結果については家族の来訪時に報告している。また、ホームとかかりつけ医・医療機関との関係も良好である。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期の在り方について、できるだけ早い段階から本人や家族等及びかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	重度化や終末期の対応については、入居時にホームが看取りに対応しない方針であることを説明し、看取り介護についての同意書を交わしている。ホームで対応できなくなった場合には対応可能な他施設の情報を提供を行っている。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉掛けや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	入居者への呼びかけや態度は優しく穏やかである。個人の記録は事務室で行われ、ファイルの保管については見えないよう工夫された棚で管理されている。個人情報についても取り決めがあり、職員全員が理解している。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望に沿って支援している	入居者との普段の関わりや会話から意向や希望を把握している。食事時間や入浴時間など一人ひとりの体調や思いに合わせて対応できるよう配慮されている。		

外部	自己	項目	取組の事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取組を期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	入居者の力に合わせて調理や配膳、後片付けを行っている。旬の食材を取り入れ、誕生日や季節の行事の際は入居者が希望するメニューを作成するなど工夫している。食事は入居者と職員が同じ食卓で同じものを食べており、笑い声が飛び交う和やかな雰囲気、さりげないサポートを行っている。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴の時間は決められておらず、入居者の希望に応じ、毎日入浴を楽しめるよう支援している。また、入浴を拒む入居者には言葉掛けを工夫し、足浴やシャワー浴など入浴が楽しめるよう工夫している。		
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	習慣や希望、力量に応じ、家事を中心として入居者一人ひとりが得意とすることをお願いし、楽しみや役割を持って暮らしていけるよう支援している。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望に沿って、戸外に出掛けられるよう支援している	近所のスーパーやホームセンターなど入居者の希望に応じて馴染みの場所へ外出できるよう支援している。また、歩行困難な方には車いすを準備し外出の支援を行っている。		
(4)安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及びすべての職員が、居室や日中玄関に鍵を掛けることの弊害を理解しており、鍵を掛けないケアに取り組んでいる	日中は施錠しておらず、入居者一人ひとりの外出の傾向を把握し対応している。外出傾向のある方には、職員と一緒に散歩に出かけるなどの対応をしている。また、入居者が外出した際には近所の方が声がけしてくれる等の関係が築かれている。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろから地域の人々の協力を得られるよう働き掛けている	消火器等の定期点検が行われ、2日分の非常用食料が備蓄されている。また、マニュアルに基づいて1年に2回、日中の火災を想定した訓練を実施している。しかし、夜間想定訓練や地域住民の参加までには至っていない。	○	避難訓練は夜間想定訓練を含め年2回以上実施し、災害時に地域住民の協力が得られるよう避難訓練への参加を働きかけることが求められる。

外部	自己	項目	取組の事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取組を期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	チェック表を作成して水分摂取量・食事摂取量を毎回記録し、月2回の体重測定を行っている。水分補給に注意が必要な入居者には嗜好を把握し、摂取しやすいもので提供している。献立は法人内の栄養士が作成し、栄養バランスに配慮されている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	明るさ、室温・湿度は調整されており、職員の会話のトーンやテレビの音量も適切である。時計や暦は共有スペースの見やすいところに掲示されている。壁への装飾は季節のものや、行事の写真等が飾られ居心地よく過ごせるよう工夫されている。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ホームから家族に働きかけ、タンスやベッドなど使い慣れたものが持ち込まれている。居室には家族の写真や絵が飾られ、寝具もそれぞれの好みで用意され、一人ひとりの生活感が感じられる居室となっている。		